

## インターバンクの声（2015年12月16日）

原油価格の低迷や中国人民銀行が人民元安を容認するように対ドル基準値を4年ぶりの元安水準に設定するなど、世界経済の先行き不安を先取りするような動きもあって、リスク回避による円買いや米国債買いが進んでいたが、さすがに米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果が出る間近になって、そうしたポジションを一旦振り出しに戻す調整が入ったようだ。ユーロが1.10ドル台後半を超えたり、ドル円が120円台前半を割り込むまでドル売りが進めば新たな相場形成局面に突入するのも可能かと思われたが、一気に突き進むには、ためらいが出てしまったようだ。ニューヨーク市場の終盤には、ユーロが1.09ドル台前半に、ドル円も121円台後半までドルが反発しており、ニュートラルな水準で東京時間、明日未明の米連邦公開市場委員会（FOMC）の決定発表を迎えることになりそうだ。ニューヨーク・ダウやナスダックが上昇して引けているので、今日は日経平均も多少なりとも反発が予想されるが、こちらは週末の日銀の追加緩和への思惑も絡んでくるので注意しておきたい。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。